

政策分野	002	教育	政策項目	006	国際・地域間交流	施策	001	国際交流の推進	担当課	社会教育課社会教育グループ
番号	計画事業名							区分	事業開始年度	事業終了年度
059	少年ジェット派遣事業を実施します。							継続	令和5年度	令和12年度

	指標項目	基準値(R3)	前期(R8) 目標値	後期(R12) 目標値	年度ごとの実績値				達成率	指標設定の考え方
					令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度		
活動指標	I 研修実施数 (単位:回)	4	4	4	9	9	0		0%	I 対象となる生徒に対してのきめ細やかな周知や現地研修を充実するための事前研修を行ったか
成果指標	I 少年ジェット派遣事業申込者数 (単位:人)	11	15	15	13	10	13		87%	I 提供をした事業に何人の町民が応募したか

【担当課評価】

項目	事業把握
主な事業実績	上期は事業周知及び参加者決定のみ (応募13人、決定9人) 下期事業実施
施策の分析 (目標達成・未達成に関する要因分析)	中高生を対象に国際感覚を身につけ自己を高めることにより、国際社会に対応できる人材を育成する事業であり、海外派遣だけではなく、事前研修と事後のフォローが重要である。 今年度は事業申込者が昨年より増えた。参加者ニーズの確認、周知方法の見直しに加え、対象年齢前の小学生の段階からリーダー研修など各社会教育事業等で事業周知を図るなど申込増に繋がる工夫を継続してきたことが要因の一つと考えられる。 参加者ニーズにもよるが一定数の需要は見込め、また、国際感覚を身につけ自己を高めることにより、国際社会に対応できる人材を育成する事業として必要性を感じる。
課題・問題点	児童数が減っていることもあるが、予算規模に対して申込者数が増えていないのが現状としてある。 対象年齢前の児童への事業周知の徹底に加え、事後のフォローアップ体制の充実が必要。

【総合評価】

区分	評価内容・指示事項
1次評価 (担当課長)	①計画通りに進める 計画的な事前研修を実施し、海外派遣の充実を図るとともに、事後のフォローアップにより、参加者した中高生の育成に努めること。 また、次年度以降は、児童・生徒の減少に伴い、派遣人数・研修先など、検討しながら、継続して事業を進めること。
2次評価 (副町長)	①計画通りに進める 一次評価のとおり。
外部評価	※評価対象外
最終評価 (町長)	①計画通りに進める 二次評価のとおり。

今後の展開・方向性 (国・道の動向や住民ニーズ等も踏まえ、重点的・優先的に取り組む施策等)	児童数が減少していくことと、円安などの社会情勢などもあり、予算的な部分からも募集人数や研修先など、検討を必要とする。
--	--

政策分野	002	教育	政策項目	006	国際・地域間交流	施策	002	地域間交流の推進	担当課	社会教育課社会教育グループ
------	-----	----	------	-----	----------	----	-----	----------	-----	---------------

番号	計画事業名	区分	事業開始年度	事業終了年度
060	姉妹都市（宮城県角田市）、被災地などの青少年交流事業を実施します。	継続	令和5年度	令和12年度

	指標項目	基準値(R3)	前期(R8) 目標値	後期(R12) 目標値	年度ごとの実績値				達成率	指標設定の考え方
					令和5年度	令和6年度	令和7年度	令和8年度		
活動 指標	I 事業実施数（子ども）（単位：回）	0	1	1	1	1	1		100%	I・II 事業実施回数
	II 事業実施数（青年）（単位：回）	1	1	1	1	1	0		0%	
成果 指標	I 事業参加人数（子ども）（単位：人）	0	25	25	27	27	22		88%	I・II 事業参加人数
	II 事業参加人数（青年）（単位：人）	5	5	5	6	5	0		0%	

【担当課評価】

項目	事業把握
主な事業実績	子ども交歓角田市派遣22人 小学5年～中学3年生までの20人と高校2年生2人の22人にて3泊4日の宿泊研修を姉妹都市である角田市で実施。
施策の分析 (目標達成・未達成 に関する要因分析)	旅費の高騰により、募集人数を前年度の25人から20人に変更した。 各学校にて説明会を行い、定員を超える応募となった。(申込人数35人)
課題・問題点	角田市参加者が少なく(10人)、研修内容ははじめ市町間の人員的バランスや年齢構成等も含めて協議、検討が必要である。

【総合評価】

区分	評価内容・指示事項
1次評価 (担当課長)	①計画通りに進める 子ども事業の本町からの団員派遣については、各学校での事前の説明会を実施し、角田市との連絡を綿密に取りながら事業を計画通り実施することができたことを、来年以降も継続して地域間交流を推進すること。 また、青年団の受け入れについても、角田市と連携しながらより良い交流事業となるよう企画・実施を行うこと。
2次評価 (副町長)	※評価対象外
外部評価	※評価対象外
最終評価 (町長)	※評価対象外

今後の展開・方向性 (国・道の動向や住民ニーズ等も踏まえ、 重点的・優先的に取り組む施策等)	栗山町、角田市両市町の青少年育成事業実施状況、参加状況を勘案して、相互のバランスの良い人員交流を検討し、参加者ニーズも踏まえて、身になる事業となるよう引き続き企画、実施を行う。
--	--